

## 人材育成・確保に関する研究

# ①外部人材の募集、制度運用、定着支援条件の整理分析 —学生インターンの効果— (2016年～2019年)

### ◇概要

高齢化が進行し、人手不足を課題に持つ中山間地域では、地域に関わりを持ちたい都市住民や大学生など地域の外に居住する人材(以下、外部人材とする)が関わることで地域にもたらされる効果が期待されています。本研究では、外部人材の中でも大学生に注目し、実際に大学生を対象とした地域づくりインターンシップを開催し、受入地域側の効果の把握、学生インターンシップの実施手法、運営手法の整理を目的に研究を実施し、以下の4点を明らかにしました。

1. 学生との関与による受入地域側の主な効果は「地域内の担い手育成(個人の意識変化)」である。
2. インターンシップを通じて地域住民同士のつながりの拡大が期待できる。
3. 学生の滞在方法や活動テーマの有無などのプログラム内容によって、学生と地域住民との関係性の構築状況が異なる。
4. 地域のキーパーソンや大学と地域の間立つコーディネーターの役割が重要。

地域側の効果を「個人の意識変化」に留めず、地域づくりの促進効果へと発展させるためには、受け入れる目的・狙いの明確化や共有、受入体制、特にコーディネーターの確保、プログラムの内容を地域ぐるみで検討するなどの取組が望ましいです。

### ◇現状と課題

人手不足・人材不足といった課題を抱える中山間地域では、外部人材との関わりが期待されています。外部人材と関わることで地域住民自身が地域の魅力や地域資源の価値を再認識する(鏡効果)、都市住民の中山間地域への理解が深まり、それが中山間地域への移住につながるといった効果が期待できます。しかしながら、外部の人材が地域を訪れることで地域のもてなし疲れ、交流疲れに行き着いてしまう事例や、外部人材を受け入れるメリットや効果が見えにくい、検証しづらいといった課題が存在しています。

### ◇研究方法

【2016～2018年度 実証実験・参与観察】

学生地域づくりインターンシップの開催

受入地域及び参加学生へのサポート

受入地域: 島根県内12地区

浜田市(美又・井野)、益田市(真砂・二条・北仙道)、

大田市(北三瓶)、雲南市(波多)、邑南町(出羽・銭宝)、

津和野町(左鎧)、吉賀町(柿木)、隠岐の島町(五箇)

参加学生: 37名 参加大学: 24校

【2018～2019年度 効果検証】

参加学生の行動・地域住民との関係性構築状況の把握(学生の活動中の記録)

夏休み学生インターンシップ受入地域へのアンケート・ヒアリング調査

A大学研究室フィールドワーク受入地域及びサポーターへのヒアリング調査



写真: インターンシップ活動中の様子

### ◇研究結果と成果

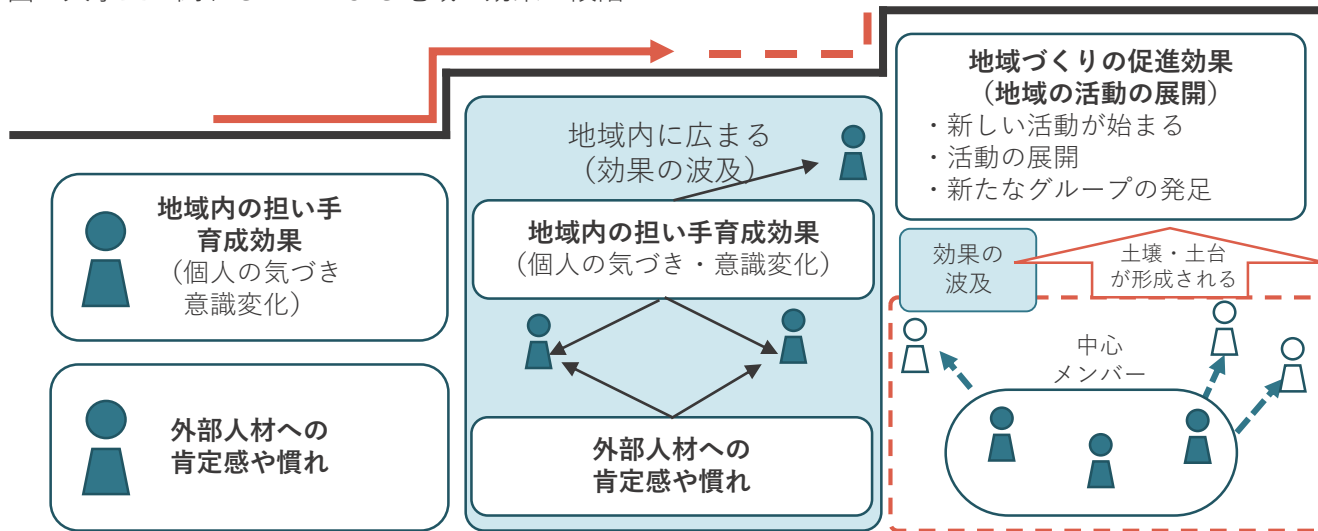
大学生と関わる地域側の効果には段階があり、「個人の気づき、意識変化」といった地域の担い手育成効果がベースとなっている(図1)。受入地域の中には学生との関わりを機に「個人の気づき、意識変化」をベースとし、地域づくりに取り組む新たなグループが生じるといった、地域促進効果(地域の活動の展開)がみられた地域もあった。

〈報告書〉「学生インターンシップ受入れ地域での意識調査と実績評価」

田中宏美(2016). 島根中山間七研報12, P1～7

# 研究成果データ

図 大学生と関わることによる地域の効果の段階



## 地域のフェーズ

- ・地域づくりにこれから取り組もうとしている話合いや集う場が必要
- ・地域づくりに取り組んできたが行き詰まり感新たな視点が必要



- ・地域全体の進む方向性がみえてきている
- ・個々のグループや団体が活動に取り組んでいる

期待する効果の段階に応じて、下記のⅠ～Ⅲの3点について検討が必要

図 大学生等若い世代の関係人口増加に向けた条件整理

期待する地域の効果	地域住民の気づき意識変化(個人レベル)	地域住民の気づき意識変化の広がり	地域づくりの促進効果
Ⅰ. 受入地域の目的・狙い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから地域づくりに取り組むためのきっかけが必要</li> <li>・地域づくりに取り組んできたが行き詰まり感(停滞感)があるため、地域の資源の再認識や新たな視点が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりへの関心、関わる人材の拡大が地域内に必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のビジョンや進む方向性が見えてきている</li> <li>・活動が進められている状況で、具体的な提案が必要</li> </ul>
Ⅱ. 受入体制・中間的な役割の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の状況と大学のニーズを擦り合わせできる人材(自治体職員・第三者)</li> <li>・特に活動前のマッチングの段階が重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の状況と学生の興味・関心を結びつける人材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者・よそ者の意見を必要としており、学生の提案を受けて実行できるグループや組織の存在</li> <li>・地域のニーズと学生の関心を擦り合わせできる人材(自治体職員・第三者)</li> </ul>
Ⅲ. プログラム内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のテーマは定かでも良い</li> <li>・特に活動前のマッチングの時点で狙いや目的、地域との合致を確認することが重要</li> <li>・地域に長期間滞在するなど、密度の濃い関係性を築くことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のテーマは定かでも良い</li> <li>・活動期間中に大学生と地域住民が多く関われる工夫が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確なテーマがあった方が良い</li> <li>・長期間連続で滞る必要はなく、活動期間中に地域の課題やニーズにあった学生からの提案が生まれるように、成果物や達成目標を設定することが必要</li> <li>・場合によっては活動終了後も学生が関われる環境を整備(活動拠点、連絡のやり取りができる、移動手段)</li> </ul>

## ◇連絡・問い合わせ先

島根県中山間地域研究センター 企画情報部 地域研究科

担当 研究員 貫田 理紗

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207番地

TEL:0854-76-3857 FAX:0854-76-3758

E-mail:nukita-risa@pref.shimane.lg.jp H P:http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/